

令和四年七月一日 信者心の道勉強会

神 示

人類が学び 知り得た歴史に 「真理」を読み取ることは難しい

人類は 運命実体で回る この世の真実を見ずに

知識と努力で生きている

真実は 万物の運命が重なる 時代の流れの中に

人類は有限の時代を生きる

知り得たことも その時代の一端にすぎない

信者に申す

有限の時時代を「生きる」 人生の真実に気付いて

「運命」に重なる「人生」を歩むべし

家族で「教え」を学び 正しく関わることで

「運命」に導かれた人生を歩み抜ける

神見るに 人類は

この世の仕組み 「人たる人の心人生」を知らずに生きている

努力が生かさねず 「実体」に心人生のまれて 悩み 苦しむ人人々が多い

神が世社会に示す「教え」を 家族で学び

家庭に生かす努力を 家族で実践

自然と 家族の心運命実体は重なり 愛心あいしん 愛語で出会いを深めて行く

家族の運命実体は 自然と重なり 補い合って

六つの花びらが咲き始める

家族の心愛心が重なり合うことで 事故 災難なき日々にちにちが送れるのである

我が「人生」と家族の「人生」が 重なり 補い合って

有限の時時代を 人人間は生きている